

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2673000127		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	長岡京ケアハートガーデン グループホーム西山の郷 (2階もみじ)		
所在地	京都府長岡京市奥海印寺三段畑8-1		
自己評価作成日	平成25年12月13日	評価結果市町村受理日	平成26年5月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活をその方らしい時間を過ごしていただけるように、個人の思いを大切にしている。 ・食事は季節の食材を使いスタッフが家庭の味を大切にしている。また、手作りであることから入居者の食べやすい形態に変えて提供できている。 ・重度になって表現に乏しくなった方の個々の思いの伝え方を出来るだけ理解できるように、スタッフ間で話し合う機会を持ち、その方の心身の状況に添ったケアを行えるように努めている。 ・一生涯の終の棲家である安心感を得ていただけるように、スタッフは医療者との連携を重視してスキルの向上を意識している。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2673000127-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成26年1月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・開設12年目であり年齢を重ねていかれている利用者の個々の状況を、「個人の尊厳を大切に」「画一性、押し付けの排除」を念頭に、個々にあったケアを行っている。 ・買い物や外出することは少なくはなかったが、散歩時などに挨拶を交わしたりする中で、元気があった頃の利用者を理解くださる地域の方々から暖かい声かけや気配りを頂くこともあり、地域に密着していることを感じる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の神社のお祭や行事を楽しみしておられ、体調を考慮しながら参加している。 ・近隣の地主の方のご好意にて散歩時にコスモスを摘ませて頂いたり、お野菜を頂いたりという交流を持たせていただいている。 ・近隣の幼稚園から定期的に訪問して下さる園児さんとの和やかな時間を楽しみにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・中学生の体験学習の受け入れや、常に近隣の方の認知症の家族を抱える方の相談や見学を受け入れられる環境を整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・定期的に運営推進会議を開催して、ユニットの状況や日々の様子を報告させていただいている。 ・会議の中で頂いた様々な意見や情報を利用者のケアに反映させている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・地域の開催する会議には、管理者及び代表者が参加したり、講演の依頼がある時は管理者が対応している。 ・地域の講演や研修には積極的に参加して共有する事にて、サービスの質の向上を心がけている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・機能低下により、身体のバランスを整えることを自ら行えない利用者の方などに、危険性を感じる機会が増える中、密なケアカンファを行ったり、家族の理解と協力のもとで、安心と安全を確保していく工夫をしている。 ・歩行が不安定であるも歩きたいという思いがあらわれる方が、転倒しないように環境を整え見守ることにて拘束にないケアを目指している。		

グループホーム西山の郷(2階もみじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・各スタッフが自己覚知を心がけながらストレスを蓄積しないように、情報や対応の工夫を交換できる場を作り虐待防止に努める。 ・様々な研修や書物の事例などを通して虐待について学ぶ機会を持ってケアに活かしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・実際に利用している方は存在しないが、家族の高齢化という問題もあり、今後検討していく必要性は感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居本契約の前に見学やお試し入居ができ、本人や家族の意思による入居につなげている。 ご本人やご家族の希望やご意向を伺い、不安なく入居できるように配慮する。制度改正などについてはその都度説明をおこなう。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご家族との日ごろの会話から様々な要望を話しやすい環境を作り、運営に反映できるように心がけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員の意見や提案事項はユニット会議などでまとめて、リーダー会議や職場運営会議、管理者会議へと繋げることに代表者に届くようになっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・スタッフの個性を大切にしながら、得意分野での活躍が出来るような場を持ち評価することで、やりがいを見出してもらえるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員の勤務体制に制約の中で、様々な研修に参加し状況の提供をもらいながらユニット会議での30分の研修の場を設け、学んだことは共有しケアに生かせるよう努める。		

グループホーム西山の郷(2階もみじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・研修会に参加し、交流や情報交換の機会を得て、自身の糧として自己向上のきっかけにしている。 ・同業者と交流することで課題への意識を深めることもできる。学んだことはユニット会議で共有し、ケアにいかしていく。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ご本人の揺らぎや不安に寄り添い、今の心境を受け止めた上で、今後どのようにすごしたいか、気持ちと心のかんじながら今その人にとって何が一番必要か一緒に考えていく。入居時の一週間のカンファレンスと1か月後のモニタリングを評価した上で、生活援助計画の見直しをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・事前面接では、ご本人の面接とは別にご家族の思いもしっかり受け止める機会を設け、ここで生活することに安心がもてるように、ご家族と相談しながらご本人を見守っていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談を受けた時は、じっくりと傾聴させてもらい、何を支援させていただくのか、明確にし速やかに対応できるように努めている。今まで生活され、大切にしてきた趣味・馴染みの関係が維持できるように支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・人生の大先輩として敬い、経験から生まれた知恵を教えていただきながら本人の気持ちを大切に、できることの継続を大切にしながらできなくなったところを支え、喜怒哀楽を共にしながら、一緒に生活を作っていく関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会にこられた際には、ご本人とともに喜び、笑顔で迎えられている。ご本人のありがたい姿、あってほしい姿などを話しを聞いたり、相談しながら、ご本人のよりよい生活の支援を支えていく関係になれるように努力している。日々の生活の様子を伝え現状変化への対応を一緒に考えていただき、本人を共に支えられる信頼関係を築いている。		

グループホーム西山の郷(2階もみじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご自宅の近所の方が訪ねて来られリビングで談笑されたりと交流される機会もある。 ・入所前に信仰していたところからの季刊誌などを購読している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・午後のひとときに、歌を歌ったり、しりとりをしたりと人と人とのふれあいを大切にし、利用者同士のつながりをふかめる工夫をしている。 ・利用者同士のよい面が互いに見えるような関係に配慮したり、中に入って関係の橋わたしをしたりしている。互いの関係が支えられ、温かみのあるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去される理由は、入院の方、転院のやご家族の近くの施設に転居されるケースが大半であるが、ご家族とともに、転院先や転居先と利用者の今後に向けて相談や情報を伝えるなど支援及び連携に努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の会話や行動、表情から、何を求めているか読み取り希望や意向の把握に努めている。時間による変化にも留意し穏やかに過ごせるように配慮している。外出することにより、普段見られない表情を見られたりして新しい気づきがある。 ・スタッフは、自分の気づいたことをユニット会議で出し合い共通の理解に繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・初期面接の記録などをもとに日頃の会話や行動の中から聞いたことなどをユニット会議等で出し合いその方の全体像に近づく努力をしている。 ・色々な話題を提供し、会話の中からご家族への思い、故郷の思い出、趣味などを伺うことができる。そういう機会をたいせつにしながらケアに繋げている。		

グループホーム西山の郷(2階もみじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の状態については申し送り等により24時間の変化をとらえる。快適な時間、不安の多い時間をとらえることで早めの対応を試みている。 ・残存能力の把握に努め、維持する工夫をしている。 ・レクリエーションの内容も工夫して有する力を楽しみにかえる努力をしている。 ・朝食後にバイタルをとる。顔色などから健康状態を把握し、入浴や活動のめやすにする。発熱など特変時には申し送りによる様子観察を行っている。 		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアプランに添って、カンファレンスで現状を出し合い具体的な援助方法を確認する。ご家族にご意見やご希望をうかがいながら、よりよい支援の為に計画を作成している。 ・医療面については訪看、かかりつけ医の意見を参考にしている。毎月のモニタリングを行い、次の援助計画につなげる。 		
27		日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・援助計画をもとに記録を書き、その時の様子や気づいたこと、快・不快などを会話を織りこみ記録して、よりよいケアに活かす努力をしている。 ・カンファレンスで気づいたことをスタッフ間で共有し、援助計画の見直しを6ヶ月に1回は実施している。 		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・併設の訪問事業所の方から福祉用具の紹介などの情報の提供などを頂いたり、在宅での方法や工夫などを伺い参考にしている。 		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会や諸団体とのネットワークは密であり、地域の取り組みやボランティアさんとのつながりは深い。 ・書道の会やポップバンドや園児さんの訪問など、地域の方々に支えられ、楽しみを広げている。 		

グループホーム西山の郷(2階もみじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居前にかかっていたドクターをそのまま引き継いで訪問診療をしていただいている。 ・地域医師会や地域の訪問看護ステーションのつながり、また各関係機関の連携により、ひとりの入居者に対する相談や処遇改善に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・2週間に1度の非常勤看護師の訪問にて、日常の健康管理の相談や受診の判断の相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時は家族を介して病状及び状態の確認を行いながら、退院へ向けての支援の協力を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入退院を繰り返しながら低下していかれる中で、退院時の受け入れを期に、再度ご本人・家族の意向をもとに家族と主治医とケアスタッフにて話し合う機会を設けて書類を交わしている。 ・主治医の指示のもと医療連携を行ないその方に応じた終末期を行っている。 ・スタッフは研修にてスキルアップを図ると共に、非常勤看護師のアドバイスを施行することで、徐々にスキルを向上させて日々のケアに活かしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・スタッフルームには緊急マニュアルが貼ってあり、職員は常に確認している。 ・救命救急の講習を随時受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・消防署と近隣に協力を得て、利用者も参加し、年2回の避難訓練を実施している。 ・日常的には避難経路の確保に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・お一人お一人を尊重する言葉がけを心がけている。耳が遠くなった方への配慮や他者同士の関係にも配慮して、言葉や内容を考えて対応している。 ・記録等、個人情報のものは整理を心がけ施錠して管理している。 		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・声かけ時はゆっくりと低めの声にて話しかけたり、介助時も行動を伝える工夫を行うことにて、利用者の理解と協力のうえ行うように努めている。 ・おひとりお一人の気持ちや思いを適宜その方の表現方法から感じ取れるように心がけている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・体調や天候なども考慮しながら散歩、レクリエーションへの参加、入浴など希望に添うことを優先している。 ・居室で過ごしたい方には訪室して、安心して過ごせるよう声掛けを行っている。 ・お一人お一人の生活ペースを大切にしている。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ご自身で行える方は好みのおしゃれを行っておられる。 ・気候の変化や着脱の有無が難しくなっておられる方が多くなる中、季節や家族が選んで用意してくださった物などを中心に考慮して着用していただいている。またお誕生日などの機会にて、好みに近い物をプレゼントさせていただき事にて、おしゃれを楽しんでいただけるように心がけている。 ・衣服の汚れや着用の乱れには速やかに対応できるように、常に気配りを行うように努めている。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご飯の固さを入居者様の好みに合わせ柔らかくしている。 ・野菜なども柔らかくしており、必要な人にはお粥やミキサー食など、咀嚼や嚥下の力に合わせた調理をして、口から食べられることを大切にしている。 ・野菜を切ったり、食器の洗い方、片付け方など経験から教わることも多く一緒にしながら会話をひろげている。 		

グループホーム西山の郷(2階もみじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○食事を楽しむことのできる支援食べ量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事量のチェックにより、食欲や体調の変化にも留意している。 ・咀嚼や嚥下が低下している方にはミキサー食やおかゆを提供している。 ・ゆっくり時間をかけ介助し誤嚥を防いでいる。 ・1度に多く食べられない方には医師を相談し栄養剤(ラコール)を飲んでもらっている。 ・お茶などもゼリー状にする事で誤嚥防止を行っている。 ・水分と排尿量と対比している人もある。 ・夜間時にも必要に応じて水分補給をし脱水予防をしている。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・食後洗面所にて義歯洗浄、うがいを促す。ご自身にて行うことが難しい方は、手伝い行なっていたり、ご自身にて誤嚥を起こさないように配慮している。 ・口腔ケア後は気持ちもさっぱりしている。寝たきりの方には口の中に食べ物がのこっていないかを確認し、誤嚥防止にも繋げている。 		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄時にはホワイトボードにて、適切に排泄が出来ているかを確認して、状況により声かけ案内する。 ・尿意とトイレへの案内のずれがあり、パットを使用する事にて安心を得ていただける方も、尿意の仕草などの把握を心がけてトイレやPTイレでの排泄により、快適に過ごせるように配慮する。 		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・水分の補給を促している。バナナをジュースにしたり、ホットミルクなどを提供したりしている。適度な運動を促す。 ・医師に相談し、緩下剤を服用している方もある。 ・腸の動きがよくなるように体を温めたり腹部マッサージを行ったりしている。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・体調や生活ペースを考慮しながら、ご本人の希望に添えるよう、時間やタイミングを考え、気持ちよく入浴していただけるよう工夫している。 ・体調により清拭、足浴、手浴で対応することもある。 		

グループホーム西山の郷(2階もみじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・利用者の生活習慣を大切にしながら、快眠していただけるように、個々のケアを提供している。 ・主治医の指示に寄る入眠導入剤の服用をさせている方もあり、服用してもなかなか眠れない時には、暖かい飲み物を提供したりお話しすることで気持ちに寄り添い、安心感を持ってもらいリラックスができるように配慮する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個々の薬の内容と副作用等を理解して主治医の指示ももと投薬する。 ・投薬時は誤薬や飲み落としがないように充分注意して行う。 ・体調不良時などは、バイタル状況や病状の説明を主治医に行う事で、医療につなぐ支援を行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・おひとりお一人の興味や関心のあることを生活歴や嗜好から見出して行えるように工夫する。 ・散歩やドライブなどへ出かけることにて、気分転換が行えるように、施設全体にて取り組み参加していただいている。 ・日々は合唱やしりとりなどを行ったり、地域のボランティアの先生による書道の会に参加したりと、充実した時間が提供できるように努めている。 ・雑談をされる中で、新聞やTVのニュースをスタッフに話し様々な情報を提供くださることを張り合いに思っておられる方もある。 ・ご自身の家事の経験などを若いスタッフに伝えることや、夜勤のスタッフに毛布や暖をとる物を提供することなどを、役割と感じておられる方もあり、お気持ちを受け止めることを大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・利用者の体調を十分に考慮しながら、桜や紅葉など季節を肌で感じていただけることを大切にしている。 ・個々のフロアだけでは計画できにくいことも、施設全体の計画とする事で、少ないスタッフで多くの利用者との時間が出来るように検討して試みている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ご自身での管理が出来ない方がほとんどとなられて、買い物支援は行えていないが、状況により同行していけるような環境ではある。		

グループホーム西山の郷(2階もみじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・遠方の家族やご親戚などからの電話連絡はその都度取次ぎ、聞き取りにくい方などは状況により工夫をしている。 ・家族からののがきなども楽しみにされている方もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただける雰囲気作りを心がける。レクリエーションで作品を製作し、リビングの壁面に飾って楽しんでいる。会話を広げ自信や居心地のよさにつなげている。トイレ使用後は清潔感を保ち、臭いにも配慮していきたい。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置をかえたり座る場所を配慮して安心できる居場所づくりや利用者同士のつながりや安心した関係を保てるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が今まで使われていたものを持ちこんだり写真を飾っていただいたりして自由に居心地よく過ごしていただけるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室の出入り口・廊下には手すりが設置されている。 ・浴室は座位にて浴槽に入れるような機械浴が設置されており、車椅子の方も介助できるように出入り口にはリフトが設置されている。		